

木曾川下流自然観察会

テーマ 「木曾川を知ろう」

日時 2015年4月12日(日) 19:30~12:00(晴)
参加者 6名

今年度から始めた木曾川下流の第1回の観察会です。4月初めから腰部脊柱管狭窄症で足がひどく痛み、うまく案内できるかどうか不安だったため、積極的な声掛けは行いませんでしたが、尾張北部自然観察会の参加メンバーなどが来てくれ、6名で観察会のスタートです。

最初なので、まずはフィールドの「木曾川を知ろう」というテーマです。一宮の辺りの木曾川は「下流」なのか「中流」なのかということが話題になりました。人によって受け止め方に差があると思いますが、国が定めた木曾川の水質環境基準の適用水域が、犬山の頭首工より下流は「木曾川下流」という区分になっているので、一応、「木曾川下流自然観察会」としたものです。

この辺りは木曾川が3つ(本流、北派川、南派川)に別れ、三派川地区と呼ばれています。まずは堤防の上(天端「てんば」)から南派川を眺め、河川の構造について低水路と高水敷、堤内地と堤外地、川表と川裏、表法面と裏法面などを確認しました。今日のコースは、高水敷を上流に向かい、堤防に上がり裏法面から隣接する大野極楽寺公園に回り、138タワーパークに戻るというルートです。

ちょうど春先に咲く花が見頃で、ニホンタンポポ、ムラサキサギゴケ、アケビ、スマレ、ヒメウズ、ムラサキケマンなどを楽しむことができました。特にスマレの群生はみごとで、幼虫がスマレを食草とするツマグロヒョウモンのメスがその近くで産卵行動をしていました。また、高水敷には初めて見るアブラナ科の植物が一面に淡黄色の花を咲かせていました。北米原産のヒメクジラグサではないかと思われます。

参加者のうちの指導員3名は4月5日に行われた協議会の「フィールドセミナー」でいがりまさしさんから植物写真の撮り方を学んでおり、伝達講習しながら露出補正のしかたや空を入れた構図などについて現地で解説しながら写真撮影を実演してくれました。協議会の研修の成果ですね。(報告：齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥：カワウ、ダイサギ、トビ、キジ(声)、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス(声)、ヒバリ、ホオジロ、メジロ、カワラヒワ、シメ、ムクドリ、ハシボソガラス **昆虫**：ヤマトシジミ、ベニシジミ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ツマキチョウ、テングチョウ、ニホンミツバチ **花**：セイヨウタンポポ、ハルジオン、オニタビラコ、オオイヌノフグリ、オランダミミナグサ、ノミノツヅリ、コハコベ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、カキドオシ、スイバ、エノキ



(138タワーから見た観察会のフィールド：手前が南派川)



観察会のようす



アケビの花



ケナシイヌナズナ